

# 保育所と学校が連携した食育の進めかた

## How to proceed in the nursery and food education for schools in cooperation

曾我 郁恵<sup>1)</sup>・森本 恭子<sup>2)</sup>

Ikue SOGA, Kyoko MORIMOTO

### 背景

保育所では、平成20年3月に、保育所保育指針の3度目の改定が行われ、幼稚園・保育所は学校と連携した食育の推進を求めている<sup>1)</sup>。

一方、学校では、食に関する指導の手引の中で、幼稚園、保育所や小学校、中学校の間での連携を図ることが望ましいと明記されている<sup>2)</sup>。

これらの背景を踏まえ、幼稚園・保育所における食育は、小学校や中学校へと繋げていき継続することで、効果を高めることができると考える。

### 目的

保育所保育指針や食に関する指導の手引き等において、保育所と学校が連携することの必要性が謳われている。また、昨年度実施した学会の自由集会やセミナー等においても、連携の必要性は確認することができた。

しかし、学校は食に関する指導体制や栄養教諭制度<sup>3)</sup>ができ、食育が教育の一環として位置づけられているが、保育所はどこに焦点をあてて連携を推進するかが課題となっている。

そこで、保育所と学校それぞれの食育の実態を明らかにし、連携した食育の進めかたを共に考えることを目的とし、研究を行った。

### 方法

保育所と学校が連携した食育を実践するために、次のような方法で研究を進めた。

- I. 保育所と学校の食育の実態の把握 : 保育所及び学校へアンケート調査を実施
- II. 食育に使用する教材を作成 : セミナーの開催

#### I. アンケート調査の実施

次の方法で、保育所と学校へのアンケート調査を実施した。

	保育所	学校
地域	津山市、新見市、高梁市	津山市、新見市、高梁市
職種	調理担当者（管理栄養士、栄養士、調理師、調理員）	栄養教諭、学校栄養職員
調査内容	・食育の実態8項目 ・学校と連携した食育に対する考え9項目	・食育の実態11項目 ・保育所と連携した食育に対する考え9項目

#### <調査結果>

調理担当者に対する調査では、学校での食育の内容の認知度は、よく知っている3%、知っている18%、少し知っている61%、全く知らない18%であった（図1）。

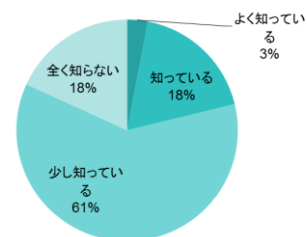


図1 <調理担当者に対する調査>  
学校での食育の内容の認知度

\*1 美作大学生生活科学部 食物学科 助手・修士

Research Associate, Dept. of Food Science, Mimasaka Univ., M. ed

\*2 美作大学生生活科学部 食物学科 准教授・修士

Associate Professor. of Food Science, Mimasaka Univ., M. ed

栄養教諭・学校栄養職員に対する調査では、保育所での食育の内容の認知度は、よく知っている 0%、知っている 5%、少し知っている 37%、全く知らない 58%であった (図2)。

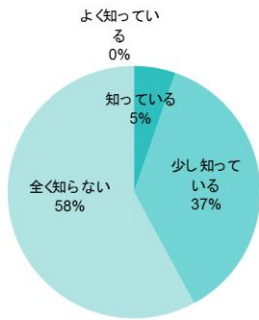


図2 <栄養教諭・学校栄養職員に対する調査> 保育所での食育の内容の認知度

保育所と学校が連携することを困難だと考えるかについては、調理担当者は、困難である 73%、困難ではない 21%、その他 6%であった。

栄養教諭・学校栄養職員は、困難である 64%、困難ではない 27%、その他 9%であった (図3)。

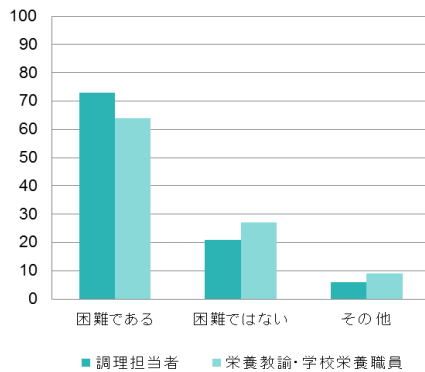


図3 連携の困難度 (%)

保育所と学校が連携するうえでの課題は、調理担当者は、話し合う場がない 21人、食育内容がわからない 7人、連携する施設がない 2人、忙しいため時間がない 9人、その他 2人であった。

栄養教諭・学校栄養職員は、話し合う場がない 12人、食育内容がわからない 6人、連携する施設がない 2人、忙しいため時間がない 5人、その他 1人であった (図4)。

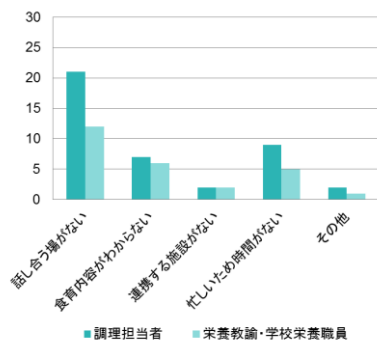


図4 連携の課題

## II. セミナーの開催

次のプログラムで、保育所調理担当者を対象に、セミナーを実施した。

- 受付・開会
- セミナー開催の趣旨説明 助手 曾我 郁恵
- 講義 美作大学児童学科  
「保育所における食育に期待すること」 講師 萬代 芳子先生
- 演習 城西保育園  
「食育を子どもたちの生活に根付かせる」 管理栄養士  
<事例発表>保育所における食育の実際 春木 映里奈先生  
小学校との連携を考える 講師 森本 恭子先生  
-食育の教材を作ってみよう-
- 意見交換会 講師 森本 恭子先生  
助手 曾我 郁恵  
参加者
- 閉会

セミナーでは、本学児童学科の萬代芳子先生に、保育所における食育に期待することと題して講義をしていただいた。保育の中での食育の位置付けを、保育計画と共に話していただき、参加者と共に再確認をすることができた。また、以前保育現場で保育士としてご活躍していた経験より、食育に期待すること話していただくことにより、調理担当者として一層モチベーションの上がる講義であった。

次に、保育所と学校の食育の実際を、事例発表を基に話していただいた。保育所の立場では、城西保育園で管理栄養士をされている春木映里奈先生に、食育を子どもたちの生活に根付かせることと題して講義いただき、保育所における食育の実際を話していただいた。城西保育園では、自園の畑で採れた野菜を給食に使用し、その野菜を媒体とし、食育を実施していた。野菜の収穫から食育へ展開する流れについて話していただいた。

学校の立場では、本学の森本恭子先生に、実際に小学校で食育を実践した内容をお話していただき、使用した教材を紹介していただいた。保育所と学校が連携するためのひとつとして、教材を使用した方法のご提案をいただいた。

そこで、その教材を参加者と共に作成し、保育所の食育でどのように使用し、食育が展開できるかについて、話しあった。今回作成した教材について、紹介する。

<材料>

- ・段ボール
- ・黒画用紙
- ・アームカバー
- ・はてなマーク
- ・両面テープ
- ・ガムテープ
- ・のり
- ・ボンド
- ・はさみ
- ・カッター

写真は、実際に参加者が教材の作成を行っている様子である。



作成するうえで、どのようにしたら食育にふさわしい教材を作成することができるか、経験や実体験を話しながら、参加者が相互に評価しあえた。



教材の作成の仕方だけではなく、この教材をどのように活用できるかについても、教材を作成しながら意見交換をすることができた。

<作成した教材>



この教材を使用し、実際に食育を実践したいとの意見をいただくことができ、セミナー終了後には、食育に対してモチベーションを上げることができ、食育を行うことが楽しみとなったとの声があった。実際にこの教材を使用しての食育実践の様子や感想を、次回のセミナーで発表していただき、食育の展開を参加者と共に考えたい。

## 研究のまとめ

アンケート結果では、お互いの食育の実態を知らない者が多く見られ、保育所と学校が連携した食育を実践するうえでは、まずはお互いの食育の実態を知ることが必要であることを改めて認識できた。

保育所と学校が連携して食育をすすめるための第一歩として、教材づくりを手始めにセミナーを行った。教材作成を行うことにより、食育の実践状況や、教材を使用した展開の仕方などの意見交換へと繋げることができた。

## 今後の課題

食育実践において教材が果たす役割が大きいことは再確認できた。今回、連携のきっかけとして教材作成を行い、実際に食育に使用したいとの意見や、食育への意欲を持っていただくことができ、今後も継続してほしいという参加者の要望もあった。

そこで、今年度以降も開催し、セミナーを調理担当者の教材作成のスキルアップの場として提供していきたいと考える。

## 謝辞

本研究にあたり、津山市保育園協議会の皆様、津山市内の保育所調理担当者の皆様、城西保育園 管理栄養士 春木映里奈先生、本学児童学科 萬代芳子先生、食物学科 森本恭子先生のご指導・ご協力に対して、深謝申し上げます。

## 参考文献

- 1) 保育所保育指針解説書 厚生労働省 平成20年4月
- 2) 食に関する指導の手引 文部科学省 平成22年3月
- 3) 栄養教諭制度 文部科学省 平成17年4月





